

AstraZeneca PLC 2011年第4四半期・通年業績

2012年2月2日 ロンドン発

通年売上は恒常為替レート（CER）ベースで2%減の335億9,100万ドル

- クレストール、シムビコートおよびセロクエルXRの売上は堅調でCERベースで二桁成長を達成しました。新興市場の売上はCERベースで第4四半期および通年で10%増加しました。
- 売上実績は、後発品との競合による20億ドル近い売上減、および政府による価格介入の影響による10億ドルの売上減を反映しています。

通年中核営業利益はCERベースで4%減の131億6,700万ドル

- 中核営業利益率は、CERベースで1.2ポイント減少し、売上の39.2%でした。これは、研究開発経費の増加と中核その他収入の減少（マイナス影響）が、営業総利益の増加および販売・一般管理費の減少（プラス影響）を上回ったためです。

通年中核1株当たり利益（EPS）はCERベースで7%増の7.28ドル

- 中核EPSは、正味株式買い戻しによる発行済み株式数の減少および前年比での税率の低下によりプラスの影響を受けました。

報告ベースの通年EPSはCERベースで29%増の7.33ドル

- 2011年第3四半期中核EPSから除外されたアストラテックの売却益は1.08ドルでした。報告ベースのEPSの上昇率は、中核利益から除外された年無形資産の評価減が2010年のほうが大きかったことでプラスの影響を受けました。

第4四半期の売上はCERベースで横ばい；中核EPSはCERベースで12%増

株主への正味現金の還元は71%増の93億7,000万ドル

- 通年で配当は10%増の2.80ドルでした。2011年、正味株式の買い戻し総額は56億ドルでした
- 取締役会は、2012年、45億ドルの正味株式の買い戻しを実施する計画を発表しました。

2010~2014年の期間の総売上、利益率、現金の使用に関する前提を再確認

- 最近上市された製品および開発中の製品のリスク調整後の売上を20億ドル~40億ドルの範囲に下方修正しました。

一連の新たな事業再構築の取り組みを発表（3ページをご参照下さい）

ファイナンシャルサマリー

グループ	第4四半期 2011 100万ドル	第4四半期 2010 100万ドル	前年 同期比 %	CER %	通年 2011 100万ドル	通年 2010 100万ドル	前年 同期比 %	CER %
売上高	8,656	8,617	-		33,591	33,269	+1	
報告ベース								
営業利益	2,167	2,411	-10	-14	12,795	11,494	+11	+10
税引き前利益	2,052	2,283	-10	-14	12,367	10,977	+13	+11
1株当たり利益	\$1.16	\$1.15	-	-5	\$7.33	\$5.60	+31	+29
中核*								
営業利益	2,990	2,865	+4	+1	13,167	13,603	-3	-4
税引き前利益	2,875	2,737	+5	+1	12,739	13,086	-3	-4
1株当たり利益	\$1.61	\$1.39	+16	+12	\$7.28	\$6.71	+9	+7

* 当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられるGAAP（一般会計原則）とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2012年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標および中核と報告ベースの財務指標の調整については13~14ページをご覧ください。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「規律ある戦略遂行により、厳しさを増す価格圧力や後発品の競合に直面したにもかかわらず、2011年度は良好な業績を達成しました。力強いキャ

ッシュフローにより、株主の皆様に対する現金の還元を大幅に増加させるとともに、将来の成長および価値を高めるための投資を継続しました。予想される市場独占権喪失による更なる売上減少により2012年の見通しは厳しいと考えられる一方、当社は長期的かつ集中した研究開発志向の戦略に引き続き責任を持って取り組みます。本日、イノベーションへの投資から得られる利益を改善するために、すべての領域における生産性向上のための更なる施策を発表しました。」

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

第4四半期

第4四半期の売上は、為替レート動向の影響が中立的であったため、CERベースおよび実質ベースで横ばいでした。アストラテックの売却益を調整すると、売上は2%増でした。売上実績は、政府の価格介入および後発品の競合による4億5,000万ドル超の売上減の影響を受けました。米国の売上は、医療制度改革が実施されたことによる3.2%のマイナス影響を受けたにもかかわらず、5%増でした。米国では、最近の後発品との競合の影響が大幅に緩和され、セロクエル、クレストール、シムビコート、およびONGLYZA™が堅調に成長しました。ROW（米国・西ヨーロッパ以外の地域）の売上は3%減でした。西ヨーロッパの売上は、二桁台の売上減と実勢価格の一桁台半ばの下落を受け、15%減でした。米国と西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は、日本での好調な伸長がカナダでの後発品の影響による売上減を上回った結果、3%増でした。予想どおり、新興市場の売上は、第4四半期に二桁成長を回復しました。

第4四半期中核営業利益は1%増の29億9,000万ドルでした。中核売上総利益率は、主にミックスのプラス変動（アストラテックの売却によるミックスの改善を含む）により前年同期を上回りました。中核販売一般管理費は、前年度と比較して四半期ごとの費用パターンが均等であったこととアストラテックの売却を反映し、前年同期比12%減でした。米国の医療制度改革実施により、第4四半期中核販売・一般管理費の2%に相当する消費税が課されましたが、効率化による費用削減により、新薬上市および新興市場の成長への投資費用を捻出することができました。

中核研究開発費は、第4四半期に31%増加しました。前年度比で大幅な無形資産評価減（olaparibおよびTC-5214プロジェクトに関連したものを含む）が支出増の大部分を占めました。増加分の残りは、後期臨床試験の費用に関連していますが、効率化による費用削減によって一部相殺されました。

報告ベースの営業利益は、前年同期比14%減の21億6,700万ドルでした。前年同期のデータには、特定の退職後福利厚生計画（主に英国での年金制度）に基づく給付の変更に関連した7億9,100万ドルの利益が含まれていません。

第4四半期中核1株当たり利益（EPS）は12%増の1.61ドルでした。これは中核営業利益の増加率を上回っており、株式の買い戻しにより発行済み株式数が減少したこと、前年同期に比べて税率が低下したこと、純財務費用が減少したことによるプラスの影響を反映しています。第4四半期の報告ベースの1株当たり利益（EPS）は、前述の報告ベース営業利益に影響を及ぼした前期の利益の影響を反映し、5%減の1.16ドルでした。

通年

通年の売上はCERベースで2%減、実質ベースで為替レート動向のプラス影響を受けて1%増の335億9,100万ドルでした。通年の売上実績は、政府による価格介入と後発品との競合による影響を受け、約30億ドル減少しました。米国の売上は、米国以外の市場の売上と同様に2%減でした。西ヨーロッパの売上は、一桁台半ばの売上減と価格低下を受けて11%減でした。米国と西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は4%増でした。新興市場の通年の売上は10%増加しました。

通年の中核営業利益は、今年第4四半期に計上された中核研究開発費に対する無形資産評価減が大きかったことから、売上の減少よりも大幅減となる4%減の131億6,700万ドルでした。研究開発費の増加と中核その他収入の減少（マイナス要因）が、中核販売・一般管理費の減少と売上総利益率の上昇（プラス要因）を上回ったためです。報告ベースの営業利益は、2011年第3四半期のアストラテックの売却益を含めて10%増でした。

中核1株当たり利益は、以前に開示した税引当への正味調整と株式の買い戻しによるプラス影響を反映し、7%増の7.28ドルでした。報告ベースの1株当たり利益（EPS）は、非課税のアストラテックの売却益1.08ドルを含め、29%増の7.33ドルでした。

生産性の向上

アストラゼネカは、集中・統合されたイノベーション志向のグローバル製薬企業であり、バイオ医薬品を含む医療用医薬品事業を基盤としています。当社は、業界の利益還元に対する圧力が高まっているものの、この戦略を成功裡に遂行することにより、株主にとって魅力的な還元を生み出すことのできる革新的な医薬品を提供できると考えています。充足されていない重大な医療ニーズ、人口の増加・高齢化、そして、継続的な経済成長によって実現されつつある新興市場での医療へのアクセス改善に対する要望など、長期的な需要増を達成する要素は整っています。しかし、これらの要素は同時に、GDPよりも速いペースで拡大する医療費に対応する政府や民間の保険支払者の能力に大きな負担をかけており、医療費の拡大は、世界経済の混乱を受けてさらに悪化しています。その結果、価格下落と医薬品の利用制限に対する圧力が継続的に生じています。また、前臨床試験から、規制当局の承認取得、上市までの成功確率が低下する一方、業界の研究開発コストは上昇しています。

アストラゼネカは、引き続き、この戦略的緊急課題に対応し、イノベーションを強化し、研究開発における投資回収率を改善するべく取り組んでいきます。投資回収率を改善するには、全社的に協調して取り組む必要があります。費用削減、サイクルの短縮、研究開発投資の生産性向上に加え、ライフサイクルの投資回収期間のキャッシュフローを増加させることにも注目しなければなりません。この作業には、グローバル規模での効果的な商業化を通じたピーク売上の向上、最も費用効果の高い新しい顧客サービス方法の導入、管理部門の費用削減、サプライチェーンの効率化などがあります。

2007年以降、アストラゼネカは、長期的な競争力の強化に向けて、事業の再構築・再編に取り組んできました。

第1段階はすでに完了しました。2007～2009年の期間に合計25億ドルの事業再構築費用を投入し、2010年末までに12,600人の人員削減を行い、24億ドルの年間コスト削減を達成しました。

研究開発部門の大規模な変更プログラムを伴う第2段階は、2010年に開始されました。プログラムのこの段階の再構築作業は、2011年に完了しました。合計21億ドルのプログラム費用のうち、2010年に12億ドル、2011年に9億ドルの再構築費用を計上しました。2014年末までに合計19億ドルの年間コスト削減が達成できる見込みであり、そのうち10億ドルは2011年末までにすでに達成されました。この第2段階に関連した人員削減は、合計9,000人程度です。

上記両方の再構築プログラムで、目指すコスト削減を達成することができました。当社は、これによって得られた削減分の一部を今後の成長と価値、たとえば新興市場の商業インフラ、バイオ医薬品の研究能力拡充に投資すると共に、その期間の中核研究開発費控除前営業利益を大幅に改善していきます。

本日、当社は、将来の価値を生み出すため継続的に研究開発ポートフォリオのイノベーションと社外提携を推進しながら、さらなる費用削減とすべての部門における柔軟性の強化を目指し、新しい事業再構築の取り組みの開始を発表します。サプライチェーン、販売・一般管理、および研究開発におけるプログラムは、完了時、2014年末までにさらに年間16億ドルのコスト削減をもたらす見込みです。プログラムの総費用は推定21億ドル（キャッシュ費用で約17億円）であり、そのうち2億6,100万ドルを2011年第4四半期に計上しました。この段階の影響を受ける人員数は、合計7,300人程度と予想されます。

プログラムの費用、コスト削減、およびすべての部門で影響を受ける人員数の最終的な推計は、さまざまな分野で必要となる協議プロセスが完了してからになります。今後数週間の優先課題は、該当する現地の協議要件と労働法に従って、変更案の影響を受ける社員に対応することです。

2010～2014年の見通し

今後数年間、特許が失効した製品から新発売される製品へと収益基盤が移行する期間となり、業界と当社双方にとって厳しい状況になると認識しています。投資家の方々にとっては、経営指針となる当社の売り上げ動向、利益率、キャッシュフロー、事業再投資に関する計画策定の前提条件について理解していただくことが有益であると考え、当社は2010年1月に、2010～2014年の期間に関する計画の見通しを発表しました。この見通しは、2011年1月と2012年1月に再確認されています。

この期間について業界環境に関する前提を設けました。当社は、全世界のバイオ医薬品も含む医薬品業界が、計画期間を通じて少なくとも実質GDPと同等レベルの成長をすると予想しています。2011年には、市場への政

府の介入による売上押し下げ圧力が強まりましたが、今のところ、動向に「画期的な変化」をもたらすには至っていません。売上、売上総利益およびキャッシュフローに関する前提条件では、当社に関する（株価に影響するような）大型の合併、買収もしくは売却はないと想定しています。実際に当社は、2011年にアストラテック事業を売却しましたが、その結果、縮小した売上基盤は6億ドル程度（2011年上半期の実績を年率換算）でした。計画では、当社主要製品の独占性が予定より早期に失効することはないと想定しています。さらに、当社主要通貨の為替レートは、2010年1月の平均為替レートから大幅に変動することはないと想定しました。それ以降、ユーロが対米ドルで大きく下落しています。ベースケースの前提からこのような誤差が見られるものの、当社は引き続き2010～14年の期間について、年間売上280～340億ドルのレンジを計画の前提とすることを再確認します。ただし、これらの前提の変化に基づき、残りの期間における売上の重心がこのレンジ前半となる可能性があります。また、新興市場については、引き続き二桁台の売上増を見込んでいます。

開発プログラムから得られたデータによる新たな知見、規制当局の動向および市場の競合状況などによって想定が変動するため、パイプラインに関する予測は流動的です。米国でのdapagliflozinについての審査完了報告通知（CRL）に関連した最近の残念なニュースなど、最新の評価に基づき、当社は、最近発売した製品と開発中の製品の売上への寄与に関するリスク調整後の予想を20億～40億ドルのレンジに引き下げました。

継続的な生産性の向上（事業再構築の取り組み完了の成功を含む）に基づき、研究開発投資前の中核営業利益率（中核研究開発費控除前営業利益率）のレンジを引き続き売上の48～54%と想定しています。この水準の売上および利益率を達成することにより、計画期間全体にわたって、事業投資、債務元利未払金の支払および株主還元に対する再投資要求を支援するのに必要不可欠な営業活動によるキャッシュフローが生み出されると考えられます。計画期間全体にわたり、当社は、将来の価値と成長を促進するため、研究開発費控除前税引き後キャッシュフローの40～50%を社内外の研究開発と設備投資に再投資することを予想しています。

2012年ガイダンス

2012年の売上は、政府による価格介入と後発品との競合（全世界でのセロクエルIRとAtacand、カナダでのクレストールの市場独占権喪失を含む）の影響により、引き続きマイナス影響を受けると予想します。当社は、2012年のCERベースの売上が二桁台前半で減少すると予測しています。中核研究開発費控除前営業利益率は2011年を下回る見込みですが、売上の48～54%のレンジの後半にとどまる見込みです。当社の主要通貨に関する2012年1月の平均為替レートに基づく中核EPSの目標は、6.00ドル～6.30ドルのレンジです。

この目標には、2012年末までの平均為替レートが当社の収益ガイダンスが前提としている2012年1月における平均為替レートから大幅に変動する可能性は考慮されていません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上高や収益が受ける影響度の予想は、2011年度通年業績発表とともに示されており、当社ウェブサイト（www.astrazeneca.com/investorsおよび<http://info.astrazenecaevents.com>）で閲覧可能です。

配当および株式の買い戻し

取締役会は、2012年3月19日に支払われる2回目中間配当金として5%増の1.95ドル（123.6ペンス、13.21クローナ）を勧告しました。その結果、通年配当金は、10%増の2.80ドル（175.5ペンス、18.54クローナ）となります。

この増配は、取締役会が採択し、2009年通年業績発表と合わせて発表した、年間配当水準の維持もしくは増配を目的とした累進的配当政策に沿ったものです。本発表を行うにあたり、取締役会は、特許失効と新製品の発売を迎えるこの時期に当社の売上基盤が移行することから、利益にある程度の変動が予想されることを認識しています。取締役会は、単年の財務実績のみを反映して年間配当額を決定するのではなく、投資サイクル全体にわたるグループの利益予想の見通しを反映した上で決定するとの見解を示しています。そのため、当期の配当倍率が変動する可能性はありますが、平均配当倍率の目標値は、報告ベース（事業再構築コスト控除前）の利益に基づき、2倍（配当性向50%）に設定しています。

配分政策と全般的な財務戦略を設定するにあたり、取締役会は、引き続き当社、債権者、および株主それぞれの利益のバランスを図ることを目指しています。事業投資の準備、新たな配当政策に要する資金調達、当社の債務元利未払金の支払を実施後、取締役会は、断続的な自社株買いを通じて、上記に要する額を超えた現金を株主に還元する機会を引き続き検討する予定です。

当社は、アストラテックの売却益で株式買戻しプログラムを強化し、2011年に56億600万ドルの正味株式買戻しを完了しました。グループ全体では、1億2,740万株を総額60億1,500万ドルで買い戻し、株式オプション行使の対価として1,070万株を総額4億900万ドルで発行しました。2011年12月31日現在の総発行済株式数は、12億9,200万株でした。

取締役会は、市場の状況と事業の必要性に応じて、当社が2012年中に総額45億ドルの正味株式の買い戻しを完了する意思があることを発表しました。

研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2011年通年業績に関連して提供されており、引き続き当社ウェブサイトでご覧になれます。

アストラゼネカのパイプラインには現在、86件のプロジェクトがあり、そのうち79件が臨床開発段階、7件が承認または発売済みです。新規化合物（NME）については現在、9件が開発後期（第III相または承認審査中）にあります。2011年には、臨床ポートフォリオ全体で25件のプロジェクト（うち5件が最初の臨床試験に移行）が次の段階に進み、21件のプロジェクトが中止されました。

2011年には、重要な規制当局の承認を世界の各市場で取得しました。*Brilinta*は、7月に米国で、12月にロシアで承認され、現在64カ国で承認されています。KOMBOGLYZE™は、2011年11月にEUで承認されました。2011年4月、*Caprelsa*に関して、米国の規制当局の承認を取得しました。2011年8月、*Axanum*に関して、EU加盟23カ国とノルウェーで承認合意を取得しました。

日本では、ライフサイクルマネジメントの観点から3件の重要な承認を取得しました。ネキシウムとフェソロデックスに関して初の承認を取得し、イレッサに関して適応変更の承認を取得しました。

第3四半期の更新以降のパイプラインの進展は下記を含みます。

dapagliflozin

2012年1月19日、アストラゼネカおよびブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、2型糖尿病成人患者を対象とした治験化合物 dapagliflozin の新薬承認申請（NDA）に関して、米国 FDA が審査完了通知（CRL）を発行したことを発表しました。

CRL では、dapagliflozin のベネフィット/リスク プロファイルをより適切に評価できるように追加的な臨床データを要求しています。これには、進行中の試験からの臨床試験データが含まれ、新たな臨床試験が必要になる場合があります。アストラゼネカとブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、FDA と緊密に連携して、dapagliflozin の申請に関する今後の適切な手続きを見極めていきます。また、ヨーロッパとその他の諸国では、申請手続きの一環として保健当局との協議を進めています。

Brilinta/Brilique

Brilinta/Brilique（チカグレロル）は現在、64カ国で承認されています。37カ国で発売されていますが、保険償還の承認時期、処方承認、プロトコルの採用などを考慮すると、現時点では、*Brilinta*への完全な患者アクセスは、急性冠症候群（ACS）市場の12%にとどまっていると推定されます。

米国とヨーロッパで最近発表された治療ガイドラインでは、PLATO試験で確立された*Brilinta*の価値が評価されています。保険償還の対象となっている地域では、価格にはこの強力な価値提案も反映されています。

2011年12月15日、アストラゼネカは、ドイツの評価団体である連邦合同委員会（G-BA）が*Brilique*の医療ベネフィットに関する最終決定を発行したことを発表しました。この肯定的な決定は、10月に発行された医療評価機構（IQWiG）の暫定評価と一致しており、このたび、新たに、脳卒中または一過性脳虚血発作（TIA）の既往歴がある75歳以上の患者についてST上昇心筋梗塞/経皮的冠動脈形成術（STEMI/PCI）サブグループが追加されました。

G-BAは、*Brilique*の最終評価について、以下のとおり発表しています。

- 非ST上昇心筋梗塞/不安定狭心症（NSTEMI/UA）に対する「重要な追加的ベネフィットあり」（格付け2）。対照薬：クロピドグレル+アスピリン
- 75歳以上のSTEMI/PCI患者、あるいは脳卒中または一過性脳虚血発作（TIA）の既往歴がある患者に対する「追加的なベネフィットあり、ただし定量化不可」（格付け4）。対照薬：プラスグレル+アスピリン
- 以下のSTEMI患者サブグループについては、「追加的なベネフィットなし」（格付け5）
 - STEMI/PCI（上記以外）。対照薬：プラスグレル+アスピリン
 - STEMI/CABG（ST上昇心筋梗塞/冠動脈バイパス術）。対照薬：アスピリン単剤療法
 - STEMI/薬剤治療。対照薬：クロピドグレル+アスピリン

PLATO試験において、*Brilique*は、NSTEMI/UAとSTEMIを含む幅広いACS患者に対して、クロピドグレルを上回る有効性を示しました。G-BAの最終評価では、*Brilique*がドイツのACS患者の約80%に追加的なベネフィットをもたらすことが認められています。

この結果は、ドイツの医療保険制度に新たに導入される薬剤に対する義務的な価格設定評価に関して2011年1月1日に発行した新法であるAMNOG（医薬品市場新秩序法）に基づくG-BAの最初の決定です。*Brilique*は、このプロセスに基づいて評価された初の製品です。

G-BAの決定は価格設定に関する協議の内容を伝えていますが、*Brilique*は、引き続きドイツでACS患者群全体について保険償還対象となります。

2012年1月、アストラゼネカは、ドイツ連邦公的医療保険協会（GKV-SV）と価格に関する協議を開始しました。

2012年1月、フランス透明性委員会（FTC）は、*Brilique*の医療ベネフィットに関する最終評価を発表しました。この評価には、*Brilique*を保険償還対象に指定する医学的便益（SMR）「重要」レベルと、「若干の有効性改善と副作用の軽減」に指定する医学的便益比較評価（ASMR）格付け4が含まれました（また、リスト掲載が推奨されました）。

アストラゼネカは、価格設定に関する協議を医療用品経済委員会（CEPS）と開始しており、PLATO試験で示されたとおり、心血管疾患による死亡に対するクロピドグレルを上回るベネフィットを反映した価格で、フランスのACS患者がこの革新的な医薬品にアクセスできるよう、合意に達することを目指しています。

KOMBOGLYZE™

2011年11月29日、アストラゼネカとプリストル・マイヤーズ スクイブ社は、欧州委員会より、EU加盟27カ国を対象としてKOMBOGLYZE™（saxagliptinとメトホルミン HCl 速放製剤との配合剤）の販売承認を取得したことを発表しました。

KOMBOGLYZE™は、最大耐用量のメトホルミンのみではコントロール不十分な18歳以上の成人2型糖尿病患者、またはすでにsaxagliptinとメトホルミンの個別の錠剤で併用療法を受けている患者の血糖コントロール改善のための食餌療法と運動療法の補助薬として適応されています。

KOMBOGLYZE™は、DPP-4阻害剤のsaxagliptin（ONGLYZA™）とビグアナイド系薬のメトホルミン速放製剤（メトホルミン IR）の配合剤で2型糖尿病治療薬です。KOMBOGLYZE™の承認は、saxagliptinとメトホルミンの投与を受けている患者2,158人を含む4,326人を対象としたsaxagliptin開発プログラムに基づいています。この開発プログラムでは、saxagliptinとメトホルミンが別々に投与されました。saxagliptin・メトホルミンの併用投与とKOMBOGLYZE™の生物学的同等性は、別の試験で明らかになっています。

Caprelsa

2011年11月18日、当社は、切除不能局所進行または転移性の患者における悪性および症候性甲状腺腫瘍がん（MTC）の治療に関するCaprelsa（バンデタニブ）の販売承認申請（MAA）について、欧州医薬品庁（EMA）の医薬品委員会（CHMP）より肯定的見解を取得したことを発表しました。提案している適応では、トランスフェクション中の再構成（RET）遺伝子変異が認められないか、または陰性である患者については、治療の決定を下す前に、ベネフィットが低い可能性があることを考慮すべきとも説明しています。

臨床データは、患者のRET状態にかかわらず、Caprelsaの治療効果が得られることを示しています。CHMPの要求に沿って、アストラゼネカは、RET陰性患者におけるベネフィットを確認する追加的なデータを得るために、さらなる試験を実施する予定です。

CHMPは、ZETA試験を含む第III相Caprelsa臨床試験プログラムのデータをレビューした上で、肯定的見解を採択しました。この試験は、病勢進行または他の部位への転移が認められる進行性MTC患者331人を対象とした二重盲検試験であり、プラセボと比較して、疾病進行のリスクが54%低下することが明らかになりました。

Caprelsaに対するCHMPの肯定的見解は、EU域内の医薬品承認権限を持つ欧州委員会によって審査されます。Caprelsaは、2011年4月に米国食品医薬品局（FDA）より承認を取得しており、現在、カナダとスイスで審査を受けています。

TC-5214

2011年12月20日、当社は、一次治療に対する反応が不十分であった大うつ病（MDD）患者における抗うつ治療の補助療法としてTC-5214を評価する第III相有効性および忍容性試験4件のうち、2番目の試験において、主要評価項目が達成されなかったことを発表しました。目標とする評価基準は、TC-5214による治療後8週目のモントゴメリー・アスペルグうつ病評価スケール合計スコアの変化におけるプラセボとの比較でした。TC-5214は、RENAISSANCE 2において総合的に十分な忍容性を示し、有害事象プロファイルはTC-5214に関する過去の臨床試験とおおむね一致していました。現在、RENAISSANCE 2の完全なデータセットの解析が進められています。

これらの結果は、最近発表されたRENAISSANCE 可変用量試験3の重要な結果（同じく主要評価項目に未達）に引き続いて発表されました。

アストラゼネカは、残り2件の固定用量第III相RENAISSANCE 有効性および忍容性試験と1件の長期的安全性試験の開発を継続していきます。残りの試験の成功可能性を再評価した上で、12月当初の推定を修正し、2011年第4四半期に1億5,000万ドルの無形資産評価減を計上しました。TC-5214に関連して保有している残りの無形資産額は5,000万ドルです。

TC-5214の規制当局への申請目標は、残りの試験の結果全体が得られた後（2012年下半期を予定）に評価する予定です。米国での新薬承認申請（NDA）については2012年下半期、EUでの販売承認申請（MAA）については2015年を目指しています。

olaparib

2011年12月20日、アストラゼネカは、治験化合物olaparibについて、漿液性卵巣がんの維持療法に関して第III相開発段階へ進めることを断念すると発表しました。

漿液性卵巣がんにおけるolaparibの開発中止は、第II相試験（Study 19）の中間解析をレビューした後で決定されました。同試験では、以前に報告された無増悪生存期間に対する効果が、卵巣がんにおける患者ベネフィットの決定的な評価基準である全生存期間に対して得られる見込みはないことが示唆されました。さらに、第III相試験で用いる最適な錠剤の用量を特定する試みも成功しませんでした。患者に対する新たな安全上の懸念は認められませんでした。

漿液性卵巣がんにおけるolaparibの開発を中止した結果、当社は、2011年第4四半期に2億8,500万ドルの税引前評価減を計上しました。

クレストール

2011年11月15日、アストラゼネカは、SATURN 試験（Study of Coronary Atheroma by InTravascular Ultrasound: Effect of Rosuvastatin Versus Atorvastatin）の最終結果を発表しました。この結果から、スタチンを用いた積極治療により、LDL-C（「悪玉」コレステロール）が平均70 mg/dL未満にまで低下し、HDL-C（「善玉」コレステロール）が平均50 mg/dL程度にまで増加すると共に、冠動脈のプラーク体積が退縮少することが明らかになりました。これらのデータは、フロリダ州オーランドで開催された米国心臓協会（AHA）の年次学術会議で発表され、同時にニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌に掲載されました。

クレストール（ロスバスタチン）またはアトルバスタチンを2年間投与することで、主要評価項目である標的冠動脈（血管長40mm以上）における冠動脈プラーク体積率の変化（PAV）において、統計的に有意な退縮が認められました。なお、クレストールはアトルバスタチンに比べ数値上大きな減少を示したものの、統計学的な有意差は認められませんでした。（-1.22% vs. -0.99%、 $p=0.17$ ）。

副次的評価項目である総プラーク体積（TAV）の変化において、クレストールはアトルバスタチンに比べ統計的に有意な減少を示した。（-6.39 mm³ vs. -4.42 mm³、 $p=0.01$ ）。

また、SATURN 試験では、既定の脂質パラメータ解析において、クレストールとアトルバスタチンに統計的に有意差が認められました。

- クレストール群では、アトルバスタチン群に比べてLDL-C 低下効果が有意に高かった（62.6 vs. 70.2 mg/dL、 $p<0.001$ ）。
- LDL-C <70 mg/dL への到達率はクレストール群の方がアトルバスタチン群よりも優位に高かった。（72.1% vs. 56.1%、 $p<0.001$ ）

- クレストール群では、アトルバスタチン群に比べて HDL-C 増加効果が有意に高かった (50.4 vs. 48.6 mg/dL、 $p=0.01$)。
- クレストール群では、アトルバスタチン群と比べて総コレステロール値を有意に低下した (139.4 vs. 144.1 mg/dL、 $p<0.006$)。

SATURN 試験で用いられた両スタチンの安全性と忍容性は、過去の報告と一致していました。

ceftazidime/avibactam (CAZ-AVI)

アストラゼネカと Forest Laboratories 社は、複雑性腹腔内感染症 (cIAI) や複雑性尿路感染症 (cUTI) を含む重篤なグラム陰性菌感染症の入院患者の治療における ceftazidime/avibactam (CAZ-AVI) の有効性を調査する第 III 相プログラムを開始しました。CAZ-AVI は、抗生物質耐性を克服し、既存治療薬への耐性を持つ多くの感染症を治療することを目的として、抗菌スペクトルが広いセファロスポリン (セフトジジム) と新規ベータラクタマーゼ阻害剤 (avibactam、旧 NXL104) の配合剤です。

この試験プログラムは、2014 年に予定されている世界的な薬事申請の裏付けとして行われているものであり、CAZ-AVI が、現在利用できる抗生物質への耐性を持つ感染症患者を含む cIAI および cUTI 患者にとって十分な忍容性を有する有効な治療薬であることを示すための 5 件の第 III 相試験が含まれています。

共同研究の一環として、本剤の開発費は、アストラゼネカと Forest 社が共同で負担します。Forest 社は、北米での CAZ-AVI 販売権を取得し、アストラゼネカは、それ以外の地域での CAZ-AVI 販売権を取得します。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

消化器

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ド ル	2010 100万ド ル		2011 100万ド ル	2010 100万ド ル	
ネキシウム	1,067	1,231	-13	4,429	4,969	-12
Losec/Prilosec (オメプラール)	248	243	-2	946	986	-11
合計	1,364	1,500	-9	5,536	6,088	-11

- ネキシウムの米国の第4四半期の売上は、前年同期比8%減の6億1,400万ドルでした。小売部門の調剤量は約8.5%減少しました。主に米国の医療保険制度改革により、平均小売価格は1桁台前半下落しました。
- ネキシウムの米国における通年の売上は、11%減の23億9,700万ドルでした。
- ネキシウムの米国以外の第4四半期の売上は、18%減の4億5,300万ドルでした。西ヨーロッパの売上は、主に後発品との競合を受けて50%減で、その半分以上がフランスにおける減少でした。米国・西ヨーロッパ以外の売上は、日本での新発売によってカナダの後発品との競合の影響が相殺された結果、5%増でした。新興市場の売上は24%増でした。
- ネキシウムの米国以外の通年売上は、通年で13%減の20億3,200万ドルでした。
- Prilosecの米国における通年の売上は、21%減の3,800万ドルでした。
- Losecの米国・西ヨーロッパ以外の売上は、第4四半期では2%減、通年では10%減の9億800万ドルでした。

循環器

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ド ル	2010 100万ド ル		2011 100万ド ル	2010 100万ド ル	
クレストール	1,771	1,587	+11	6,622	5,691	+13
Atacand	346	375	-6	1,450	1,483	-6
セロケン/Toprol-XL	236	253	-5	986	1,210	-20
Plendil	60	63	-8	256	255	-4
ゼストリル	35	40	-13	144	157	-11
ONGLYZA™	71	32	+122	211	69	+206
Brilinta/Brilique	5	-	n/m	21	-	n/m
合計	2,654	2,487	+7	10,212	9,403	+5

- クレストールの米国における第4四半期の売上は、12%増の8億4,300万ドルでした。クレストールの総処方量は、米国のスタチン市場の伸びが横ばいであったのに対し、4%増加しました。2011年11月末、米国市場で後発品であるアトルバスタチンが発売されました。現時点で入手可能な限られたデータによると、後発品であるアトルバスタチンの発売後数週間におけるクレストールの平均総処方量は、発売前の総処方量とほぼ同じです。
- クレストールの米国における通年の売上は、16%増の30億7,400万ドルでした。
- クレストールの米国・西ヨーロッパ以外での第4四半期の売上は10%増の9億2,800万ドルでした。これらの市場におけるクレストールの売上高の伸び率は、引き続きスタチン市場全体の伸び率を大きく上回っています。西ヨーロッパ市場の売上はフランスおよびスペインにおける2桁の伸長により5%増でした。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は15%増で、その半分以上が日本における増加でした。新興市場の売上は、中国での大幅な成長がブラジルでの後発品の浸食によって一部相殺され、8%増でした。

- クレストールの米国・西ヨーロッパ以外の通年の売上は、10%増の35億4,800万ドルでした。
- 自社後発品の売上を含む Toprol-XL製品レンジの米国の第4四半期の売上は、総処方量の減少と価格の低下を受け、25%減の8,900万ドルでした。2011年12月、さらに別の後発品が薬事承認を受けました。
- Toprol-XLフランチャイズの米国における通年の売上は、41%減の4億400万ドルでした。
- セロケンの米国以外の市場での売上は、第4四半期では12%増の1億4,700万ドル、通年では、新興市場での15%増により8%増の5億8,200万ドルでした。
- Atacandの米国での売上は、第4四半期では14%減、通年では16%減でした。Atacandの米国・西ヨーロッパ以外の売上は、第4四半期では5%減、通年では4%減でした。
- ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携から生じるONGLYZA™の提携売上は、第4四半期では合計7,100万ドル、通年では合計2億1,100万ドルでした。米国内での第4四半期の提携収入は5,300万ドル、通年の提携収入は1億5,600万ドルでした。DPP4製品の処方量は、2011年に米国で25%以上増加しました。年間を通じて、DPP4の総処方量に占めるONGLYZA™のシェアは1.8ポイント増加し、さらにKOMBIGLYZE XR™が発売初年でフランチャイズのシェアを4.7ポイント引き上げました。2011年12月、フランチャイズの合計シェアは16.5%に達しました。
- Brilinta/Briliqueの通年の売上は、現在までに達成された保険償還の承認、処方の承認、プロトコール採用に基づき、当社の見積もりではACS患者さんの約12%にしか製品が提供されていないことを反映して2,100万ドルにとどまりました。処方とプロトコールの採用が達成されたところでは、初期の業績は有望です。たとえば、当社がドイツで行った最近の市場調査によると、Briliqueがプロトコールに採用されている調査対象の病院では、Briliqueを使用した治療が新規ACS患者の31%で開始されています。これはクロピドグレルに次ぐ割合となっています。

呼吸器および炎症

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ド ル	2010 100万ド ル		2011 100万ド ル	2010 100万ド ル	
シムビコート	839	741	+13	3,148	2,746	+11
パルミコート	223	233	-4	892	872	-
Rhinocort	50	52	-2	212	227	-9
Oxis	14	15	-7	56	63	-16
アコレート	5	7	-29	22	57	-63
合計	1,166	1,086	+7	4,468	4,099	+6

- シムビコートの米国の第4四半期の売上は、前年比26%増の2億4,200万ドルでした。シムビコートの総処方量は、定量配合剤クラスにおける2%減と比較して、前年同期比9%増でした。その結果、シムビコートの市場シェアは、新規参入製品が発売されたにもかかわらず、2011年に2.2ポイント増加し、2011年12月に総処方量に占めるシェアは20.3%に達しました。新規配合剤治療の新規患者での市場シェアは26%です。
- シムビコートの米国における通年の売上は、17%増の8億4,600万ドルでした。
- シムビコートの米国以外の市場における第4四半期の売上は、日本（56%増）と新興市場（19%増）での強力な成長に後押しされ、前年同期比9%増の5億9,700万ドルでした。
- シムビコートの米国・西ヨーロッパ以外における通年の売上は、9%増の23億200万ドルでした。
- パルミコートの米国での第4四半期の売上は、ブデソニド吸入用懸濁剤（BIS）におけるブランドシェアが11.5%に低下し、10%減の6,100万ドルでした。
- パルミコートの米国での通年の売上は9%減の2億7,900万ドルでした。
- パルミコートの米国・西ヨーロッパ以外における通年の売上は、4%増の6億1,300万ドルでした。

オンコロジー

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
アリミデックス	166	278	-42	756	1,512	-53
ゾラデックス	298	302	-1	1,179	1,115	+3
カソデックス	142	148	-9	550	579	-12
イレッサ	149	115	+25	554	393	+32
フェソロデックス	149	111	+35	546	345	+55
ノルバデックス	27	25	-	99	89	+3
Caprelsa	4	-	n/m	8	-	n/m
合計	939	982	-6	3,705	4,045	-12

- アリミデックスの米国での第4四半期の売上は、77%減の500万ドルでした。通年の売上は91%減の4,200万ドルでした。後発品は、米国のアナストロゾールの総処方量の97%を占めています。
- アリミデックスの米国以外の第4四半期の売上は、39%減の1億6,100万ドルでした。これらの市場での市場独占権の多くは、2011年2月に失効しました。通年の売上は34%減の7億1,400万ドルでした。
- カソデックスの第4四半期の売上は、市場がほぼすべて後発品で占められている米国での500万ドル分の返品によって、米国・西ヨーロッパ以外の売上が相殺されたことを反映して、9%減の1億4,200万ドルでした。同製品の世界売上の70%以上を占める日本の売上は1%増でした。
- カソデックスの通年の米国・西ヨーロッパ以外の売上は、8%減の5億5,600万ドルでした。
- イレッサの第4四半期の売上は、売上増の約半分ずつを占める西ヨーロッパと新興市場での強力な成長を受け、25%増の1億4,900万ドルでした。イレッサの通年の売上は32%増の5億5,400万ドルでした。
- フェソロデックスの米国の通年の売上は71%増の2億6,400万ドルでした。米国・西ヨーロッパ以外の売上は、42%増の2億8,200万ドルに達しました。新しい500mgの用量レジメンの浸透がこの成長を後押ししました。

ニューロサイエンス

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
セロクエル	1,546	1,340	+15	5,828	5,302	+8
セロクエルIR	1,148	1,024	+12	4,338	4,148	+3
セロクエルXR	398	316	+27	1,490	1,154	+27
ゾーミグ	101	110	-9	413	428	-7
Vimovo	14	-	n/m	34	5	n/m
合計	1,883	1,706	+10	7,204	6,704	+5

- セロクエル・フランチャイズの米国での第4四半期の売上は20%増の11億2,400万ドルでした。セロクエルIRの売上は、プラスの価格影響と一部の在庫移動によって処方需要の低下が相殺され、18%増の9億1,000万ドルでし

た。セロクエルXRの売上は31%増の2億1,400万ドルでした。セロクエルXRは、米国における第4四半期のフランチャイズの総処方量の17.6%、フランチャイズ売上の19%を占めます。米国の抗精神病薬市場における第4四半期の総処方量は横ばいでした。セロクエルXRの第4四半期の総処方量は8%増でしたが、セロクエルIRの総処方量は6%減でした。

- セロクエルの米国での通年の売上は、前年比10%増の41億2,300万ドルでした。セロクエルXRの米国での売上は、22%増の7億7,900万ドルでした。
- セロクエル・フランチャイズの米国・西ヨーロッパ以外の第4四半期の売上は3%増の4億2,200万ドルでした。セロクエルXRの売上は22%増加し、米国以外のフランチャイズ売上の43.6%を占めています。セロクエル・フランチャイズの西ヨーロッパでの売上は3%増、セロクエルXRの売上は19%増でした。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場でのフランチャイズ売上は19%増でしたが、これは主に日本での出荷調整によるものです。セロクエル・フランチャイズの新興市場の売上は、セロクエルXRの37%の伸びがブラジルでのセロクエルIRの独占権喪失後の売上減により相殺され、6%減でした。
- セロクエルの米国・西ヨーロッパ以外の市場での通年の売上は、4%増の17億500万ドルでした。セロクエルXRの売上は32%増の7億1,100万ドルでした。
- Vimovoの通年の売上は、米国では2,100万ドル、米国・西ヨーロッパ以外の市場では1,300万ドルでした。

感染症・その他

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
Synagis	411	397	+4	975	1,038	-6
Merrem	114	183	-35	583	817	-30
FluMist	34	51	-33	161	174	-7
非季節性インフルエンザワクチン	-	-	-	7	39	-82
合計	595	656	-9	1,856	2,176	-15

- Synagisの米国での第4四半期の売上は、5%減の2億6,100万ドルでした。米国での通年の売上は12%減の5億7,000万ドルでした。Synagisの米国以外での第4四半期の売上は、当社の国際販売代理店アボット社への四半期ごとの出荷調整を反映して、24%増の1億5,000万ドルでした。通年の米国・西ヨーロッパ以外の売上は、3%増の4億500万ドルでした。
- FluMistの通年の売上は、前年比7%減の1億6,100万ドルでした。
- Merremの第4四半期の売上は、米国と西ヨーロッパで後発品が競合した結果、35%減でした。通年の売上は30%減でした。

地域別売上

	第4四半期		CER (%)	通年		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
米国	3,643	3,454	+5	13,426	13,727	-2
西ヨーロッパ	2,005	2,347	-15	8,501	9,168	-11
ROWの既成市場*	1,600	1,475	+3	5,901	5,176	+4
ROWの新興市場	1,408	1,341	+10	5,763	5,198	+10

* ROW (米国と西ヨーロッパ以外の地域) の既成市場を構成するのはカナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

- 米国の通年の売上は2%減でした。医療制度改革による価格影響により、売上は約3.3%減少しました。クレストール、セロクエル・フランチャイズ、シムビコート、およびONGLYZA™の好調な伸長により、アリミデックス、Toprol-XLおよびMerremの後発品との競合とNexiumの売上減の影響が広範に相殺されました。
- 西ヨーロッパの通年の売上は、1桁台半ばの売上減と価格低下を受けて11%減となりました。主にネキシウム、

アリミデックス、Merremiにおける後発品との競合により、売上が10億ドル近く減少しました。売上の伸長は、セロクエルXR、イレッサ、フェソロデックス、クレストールおよびONGLYZA™によってもたらされました。

- 米国・西ヨーロッパ以外の既成市場での通年の売上は4%増でした。日本での売上は、ネキシウムが発売され、クレストールとシムビコートが引き続き伸長したことを受け、6%増となりました。カナダでの売上は、クレストールの伸びがネキシウムとAtacandの後発品との競合の影響を上回り、1%増でした。米国・西ヨーロッパ以外のその他の既成市場での売上は、主にクレストールの伸びを受け、4%増でした。
- 新興市場の第4四半期および通年の売上は、10%増加しました。中国、ロシア、中東/アフリカ地域での通年の売上は、10%台半ばから後半の増加をしました。ブラジルでの売上は、クレストールとセロクエルIRの後発品との競合により減少しました。

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP（一般会計原則）とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれにプラスとなるビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、当社のグローバルな事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、2007年のメディミュン社買収に関連する重要な無形資産の償却および評価減、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取決めやその他の特殊項目といったいくつかの項目を除外するよう調整されています。これら調整の性質に関する詳細は、当社のアニュアルレポートの80ページおよび2010年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに示されています。

第4四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2011年 報告ベ ース	事業再構築 費用	メルク社 および MedImmune 社 償却	無形資産 評価減	法務関連引 当金	2011年 中核 ベース	2010年 中核 ベース	前年同 期比 (%)	CER (%)
売上高	8,656	-	-	-	-	8,656	8,617	-	-
売上原価	(1,612)	36	-	-	-	(1,576)	(1,725)		
営業総利益	7,044	36	-	-	-	7,080	6,892	3	1
売上比%	81.4%					81.8%	80.0%	+1.8	+0.9
物流費	(85)	-	-	-	-	(85)	(87)	(2)	(1)
売上比%	1.0%					1.0%	1.0%	-	-
研究開発費	(1,867)	175	-	-	-	(1,692)	(1,294)	31	31
売上比%	21.6%					19.5%	15.0%	-4.5	-4.6
販売一般管理費	(3,141)	448	117	-	30	(2,546)	(2,878)	(12)	(12)
売上比%	36.3%					29.5%	33.5%	+4.0	+3.9
その他収入	216	-	17	-	-	233	232	-	-
売上比%	2.5%					2.7%	2.7%	-	-
営業利益	2,167	659	134*	-	30	2,990	2,865	4	1
売上比%	25.0%					34.5%	33.2%	+1.3	+0.2
正味支払利息	(115)	-	-	-	-	(115)	(128)		
税引き前利益	2,052	659	134	-	30	2,875	2,737	5	1
税金	(559)	(174)	(25)	-	(8)	(766)	(769)		
税引き後利益	1,493	485	109	-	22	2,109	1,968	7	3
少数株主持分	(7)	-	-	-	-	(7)	(11)		
純利益	1,486	485	109	-	22	2,102	1,957	7	4
加重平均株式数	1,312	1,312	1,312	1,312	1,312	1,312	1,418		
1株当たり利益	1.16	0.36	0.08	-	0.01	1.61	1.39	16	12

* 1億3,400万ドルの償却調整費のうち9,300万ドルは、関連する税調整2,500万ドルを伴うMedImmune社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は4,100万ドルで、これには税調整は発生しません。

第4四半期の売上は、86億5,600万ドルで横ばいでした。

中核対売上総利益率81.8%は、主に有利な売上構成とアストラテック売却の影響により、前年比で0.9%ポイント増でした。

中核販売・一般管理費は前年比12%減の25億4,600万ドルでした。DTCその他の広告費の減少とアストラテックの売却は、新興市場への継続的な投資を上回りました。

中核研究開発費控除前営業利益率は、売上総利益が増加し、販売・一般管理費が減少したことにより、前年比3.5ポイント増の54.0%でした。

中核研究開発費は、olaparibおよびTC-5214に関する無形資産評価減、TC-5214やNKTR-118などの製品のプロジェクト費用の増加により、前年比31%増の16億9,200万ドルでした。

中核その他収入は、Entocortの収入減少がTeva社のパルミコート吸入液後発品の売上に伴うライセンス料の増加によって相殺され、2億3,300万ドルでした。

中核営業利益は29億9,000万ドルで、CERベースで1%減、実質ベースで4%増でした。中核営業利益は、研究開発費の増加が売上総利益の増加と販売・一般管理費の減少を上回り、前年比0.2ポイント増となりました。

第4四半期中核EPSは、営業利益の増加、正味支払利息の減少、税率の低下、平均株式発行数の減少を受け、12%増の1.61ドルでした。

報告ベースの営業利益は、特定の退職後給付制度（主に英国の年金制度）に基づく給付の変更によって前年に生じたプラス影響により、14%減の21億6,700万ドルでした。報告ベースのEPSは、営業利益の影響が税率の低下と正味支払利息の減少によって一部に相殺され、CERベースで5%減でした。

通年

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2011年 報告ベース	メルク社 および MedImmune 社 償却 費用	無形資産 評価減	法務関連引 当金	2011年 中核 ベース	2010年 中核 ベース	前年同 期比 (%)	CER (%)	
売上高	33,591	-	-	-	33,591	33,269	1	(2)	
売上原価	(6,026)	54	-	-	(5,972)	(6,245)			
営業総利益	27,565	54	-	-	27,619	27,024	2	-	
売上比%	82.1%				82.2%	81.2%	+1.0	+1.3	
物流費	(346)	-	-	-	(346)	(335)	3	(1)	
売上比%	1.0%				1.0%	1.0%	-	-	
研究開発費	(5,523)	468	-	22	(5,033)	(4,219)	19	15	
売上比%	16.5%				15.0%	12.7%	-2.3	-2.2	
販売一般管理費	(11,161)	639	469	-	135	(9,918)	(9,777)	1	(2)
売上比%	33.2%				29.5%	29.4%	-0.1	-0.1	
その他収入	2,260	-	68	-	(1,483)**	845	910	(7)	(8)
売上比%	6.7%				2.5%	2.7%	-0.2	-0.2	
営業利益	12,795	1,161	537*	22	(1,348)	13,167	13,603	(3)	(4)
売上比%	38.1%				39.2%	40.8%	-1.6	-1.2	
正味支払利息	(428)	-	-	-	-	(428)	(517)		
税引き前利益	12,367	1,161	537	22	(1,348)	12,739	13,086	(3)	(4)
税金	(2,351)	(306)	(98)	(6)	(36)	(2,797)	(3,416)		
税引き後利益	10,016	855	439	16	(1,384)	9,942	9,670	3	2
少数株主持分	(33)	-	-	-	-	(33)	(28)		
純利益	9,983	855	439	16	(1,384)	9,909	9,642	3	2
加重平均株式数	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361	1,438			
1株当たり利益	7.33	0.63	0.32	0.01	(1.01)	7.28	9	7	

* 5億3,700万ドルの償却調整費のうち3億7,300万ドルは、関連する税調整9,800万ドルを伴うMedImmune社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は1億6,400万ドルで、これには税調整は発生しません。

** アストラテックの売却に伴う利益は14億8,300万ドルで、これには税調整は発生しません。

2011年の売上は、2%減の335億9,100万ドルでした。

中核売上総利益率82.2%は、1.3ポイント上昇しました。利益率の前年比での改善は、主に2010年のlesogaberanに関連する無形資産評価減の影響と、2011年第1四半期のPDL Biopharma社との和解による利益によるものです。

中核販売一般管理費は前年比2%減の99億1,800万ドルでした。新興市場への投資、最近発売したブランドおよび米国の医療保険制度改革による消費税の影響は、既成市場の業務効率化を上回りました。

中核その他収入は、主に前年の第3四半期および第4四半期の処分利益が高かったため、前年比8%減の8億4,500万ドルでした。

中核研究開発費控除前営業利益率は、主に売上総利益率の増加に伴い、前年同期比1.0ポイント増の54.2%でした。

中核研究開発費は、第4四半期の無形資産評価減が大きく、後期段階プロジェクトへの支出が増加したことから、前年比15%増の50億3,300万ドルでした。

中核営業利益は4%減の131億6,700万ドルでした。中核営業利益率は、研究開発費の増加とその他収入の減少を

受けて、1.2ポイント減少して39.2%でした。

中核EPSは7%増の7.28ドルでしたが、これは、営業利益の減少が実効税率の低下、正味支払利息の減少、平均株式発行数減少の利益により相殺されたためです。

報告ベースの営業利益は、アストラテックの売却益の影響を受け、10%増の127億9,500万ドルでした。報告ベースのEPSは、報告ベースの営業利益が税率の低下と平均株式発行数の減少の好影響を受け、29%増加しました。

受取利息と支払利息

正味支払利息は、前年の5億1,700万ドルに対し、4億2,800万ドルでした。この費用の減少は、主に借入金残高の減少による支払利息の減少(4,600万ドル)と、確定給付制度によって保有される年金資産の増加による正味支払利息の減少(5,500万ドル)によるものです。

税金

実効税率は、第4四半期では27.2%（前年は28.5%）、通年では19.0%（前年は26.4%）でした。

以前の開示のとおり、実効税率は、アストラテックの非課税の売却益と、2002年から2014年末までの期間のアストラゼネカの米国での事業に関する移転価格処理および関連評価額案件に関して、英国の歳入関税庁と米国の国税庁が事前価格確認の条件に合意したとする3月の発表後の、過去の四半期の調整によるプラス影響を受けました。これらの利益を除外すると、通年の報告ベースの実効税率は26.4%でした。この26.4%の税率は営業利益に対する中核課税対象調整に適用されており、APAと関連評価額案件に伴う利益を含め、通年の中核実効税率は22.0%でした。

現時点では、2012年の通年実効税率を約24%と予想しています。

キャッシュフロー

2011年12月31日までの年度に営業活動から生じたキャッシュフローは、前年の106億8,000万ドルに対して、78億2,100万ドルでした。この28億5,900万ドルの減少は、英国および米国政府の税務当局との間での事前価格確認と関連評価額案件の和解に関連する正味金額11億ドルおよび運転資金の増加を含め、主に本年度の納税額の増加によるものです。

投資活動による通年の正味キャッシュ流出は、前年同期の22億2,600万ドルの流出に対して、20億2,200万ドルでした。この2億400万ドルの差額は、主にアストラテックの売却時に入金された17億7,200万ドルの正味現金と、社外提携関連支払いにおける10億700万ドルの減少が、財務省短期証券を含む短期投資と定期預金への26億1,800万ドルの現金の移動上回ったことによるものです。

株主への現金配分は、自社株取得正味額56億600万ドルおよび2010年の第2回中間配当と2011年の第1回中間配当37億6,400万ドルによる93億7,000万ドルでした。

資本と負債の構造

2011年12月31日現在、未払い負債残高（有利子負債と借入金）は93億2,800万ドルでした（2010年12月31日現在では92億2,200万ドル）。2011年12月31日現在の未払い負債残高のうち、1年以内に返済期限が到来するのは19億9,000万ドル（2010年12月31日の時点では1億2,500万ドル）です。

前述の正味キャッシュフロー流出の結果、正味資金28億4,900万ドルは今年度8億400万ドル減少しました。

カレンダー

2012年4月26日	2012年第1四半期業績発表
2012年4月26日	年次総会
2012年7月26日	2012年第2四半期・上半期業績発表
2012年10月25日	2012年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者
デビッド・ブレナン

当社経営陣のインタビューは、www.astrazeneca.comおよび<http://info.astrazenecaevents.com>で閲覧可能です。